

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 中国帝政国家の成立，中央ユーラシアの動向，東アジア文化圏の形成
 「B 諸地域の歴史的特質の形成」の「(3) 諸地域の歴史的特質」を想定して作成

2 単元目標

- (1) 秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に，東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。
- (2) 東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，主題を設定し，諸地域を比較したり関連付けたりして読み解き，唐の統治体制と社会や文化の特色，唐と近隣国家との関係，遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し，表現する。

3 単元計画(全体9時間)

(1) 指導計画

- ・中国帝政国家の形成 3時間
- ・中央ユーラシアの動向 1時間
- ・分裂と融合の時代 2時間
- ・隋唐帝国と東アジア 2時間
- ・周辺諸国から考える「華夷思想」 1時間（本時）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・秦・漢と遊牧国家，唐と近隣諸国の動向などを基に，東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸資料を適切に読み解いている。	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について，諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互の関わりなどに着目し，多面的・多角的に考察し，表現している。	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質についての多面的・多角的な考察や深い理解を通じて，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」，●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 ③	【学習課題】〈単元を貫く問い〉「東アジア文化圏は，どのような過程で形成され，どのような特質をもつか」 「周辺諸国の視点も踏まえて考察したとき，『華夷思想』のどのような問題点が見えてくるか」						
	【学習課題】「華夷思想とはどのような思想なのか」						
	・春秋・戦国時代 ・新しい社会思想	【ねらい】春秋戦国時代を通じて形成された華夷思想について，その特質を理解する。 ・講義をうけ，学習課題に取り組む。	●		●	(B) 華夷思想の成立の背景と空間的広がりについて理解している。 (C) 添削指導を行う。	・論述問題の記述
【学習課題】「漢代以降，儒学と皇帝権力が結びついたのはなぜか」							
・秦の中国統一 ・漢代の政治(1)	【ねらい】秦と漢の違いに着目し，儒学の果たした役割を理解する。 ・講義を受け，学習課題に取り組む。	●		●	(B) 儒学と皇帝のつながりを理解している。 (C) 添削指導を行う。	・論述問題の記述	
【学習課題】「司馬遷が当時の政治・社会に抱いた問題意識は何だろうか」							
・漢代の政治(2) ・漢代の社会と文化	【ねらい】司馬遷と史記についての資料から，当時の社会問題を考察する。 ・講義を受け，資料読解と学習課題に取り組む。	●		●	(B) 資料の読解を基に，武帝の時代の社会問題を適切に考察している。 (C) 添削指導を行う。	・資料読解と論述問題の記述	

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第2次 (1)	【学習課題】「遊牧国家はどのような特質をもっていたか」	【ねらい】遊牧国家の興亡について、地理的な広がりや歴史的経緯、文化的特徴から理解する。 ・講義を受け、学習課題に取り組む。	●		●	(B) 遊牧国家の特徴を、歴史、地理、文化の側面から理解している。 (C) 添削指導を行う。	・ 論述問題の記述
	・ 草原の遊牧民 ・ スキタイと匈奴 ・ 砂漠のオアシス民						
第3次 (2)	【学習課題】「魏晋南北朝期の政治はどのように展開したか」	【ねらい】魏晋南北朝期の中国史の展開について、遊牧国家との関係を踏まえて理解する。 ・ 講義を受け、学習課題に取り組む。	●		●	(B) 魏晋南北朝期について、遊牧国家との関係を踏まえて理解している。 (C) 添削指導を行う。	・ 論述問題の記述
	・ 分裂の時代 ・ 社会経済の変化						
第4次 (2)	【学習課題】「分裂の中で、北朝と南朝の社会・文化にどのような違いが生まれたか」	【ねらい】北朝と南朝の違いについて、社会・経済・文化の観点から、多面的に考察する。 ・ 講義を受け、学習課題に取り組む。			●	(B) 北朝と南朝の違いについて、複数の観点から考察している。 (C) 添削指導を行う。	・ 論述問題の記述
	・ 魏晋南北朝の文化 ・ 周辺国家の形成						
第4次 (2)	【学習課題】「隋唐帝国はそれまでの王朝とどのように違ったか」	【ねらい】胡漢融合の帝国が誕生したことについて、それまでの中国王朝との違いに着目しながら考察する。 ・ 講義を受け、学習課題に取り組む。			●	(B) 隋唐帝国とそれ以前の中国王朝の違いについて考察している。 (C) 添削指導を行う。	・ 論述問題の記述
	・ 隋から唐へ ・ 唐代の制度と文化						
第5次 (1)	【学習課題】「東アジア文化圏は、社会・宗教・文化・思想の面でどのような特徴をもっていたか」	【ねらい】東アジア文化圏の特徴について、社会・宗教・文化・思想の面から理解する。 ・ 講義を受け、学習課題に取り組む。		○	●	5 (1) 参照	・ 論述問題の記述
	・ 唐と近隣諸国 ・ 唐の動揺						
第5次 (1)	【学習課題】「周辺諸国の視点から考察したとき、華夷思想のどのような問題点が指摘できるか」「活動への参加を通じて、単元の学習を踏まえながら中国の歴史を相対化するよう努める」	【ねらい】単元の学習を踏まえ、華夷思想の問題点について、資料をもとに考察し、表現する。その中で、周辺の視点を踏まえ、中国史を相対化する。 ・ ジグソー学習に参加し、評価問題に取り組む。			○	5 (2) 参照 5 (3) 参照	・ 活動の様子と学習課題の記述
	・ 周辺諸国から考える「華夷思想」				○		

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

- ・ 「華夷思想」について、資料の読解を基に、周辺諸国から見た問題点を考察し、表現する。
- ・ 活動に積極的に参加し、単元の学習を活用しながら、古代中国史を周辺諸国まで視野に入れて相対的に捉える。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・学習課題の確認	・グループに資料を配付する。 ・本時の流れを説明する。	・各班3人程度とする。
展開	・エキスパート学習 ・ジグソー学習	・各班で資料を読解し、課題に取り組む。 ・A・B・Cが分散する形で、ジグソー班に分かれる。 ・各班で、A・B・Cの資料について説明・共有する。 ・各資料を踏まえて、学習課題について班で考察する。	・時間を意識するよう、こまめに経過時間を伝える。 ○活動の様子【態】
まとめ	・学習課題	・個人で学習課題に取り組む。	・机間指導を行う。 ○ワークシートの記述内容【思】

5 評価問題（評価材料）及び評価規準

(1) 学習課題（第4次）の評価規準【知識・技能】

東アジア文化圏の特徴について理解している。

学習課題（第4次）の内容

・東アジア文化圏は、社会・宗教・文化・思想の面でどのような特徴をもっていたか。

学習課題（第4次）に対する評価の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・東アジア文化圏の特徴について、歴史的経緯または周辺諸国との関わりや影響を踏まえて記述している。
--

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・東アジア文化圏の特徴について、歴史的経緯及び周辺諸国との関わりやその影響を踏まえて記述している。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・東アジア文化圏の特徴について、記述できない。→個別に添削指導を行う。

(2) 学習課題（第5次）の評価規準【思考・判断・表現】

「華夷思想」の問題点を多面的・多角的に考察し、表現している。

学習課題（第5次）

・周辺諸国の視点から考察したとき、華夷思想のどのような問題点が指摘できるか。
--

学習課題（第5次）に対する評価の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・「華」と「夷」の区別が、周辺諸国から見ると絶対的なものではないことを、資料を踏まえて考察し、表現している。
--

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・(B)の基準に加え、「華夷思想」に固執することにより王朝の発展を阻害することを表現したり、複数の資料を根拠により具体的に表現をしたりしている。
--

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・「華夷思想」の問題点について、資料を踏まえて考察していない。→個別に添削指導を行う。

(3) 学習課題（第5次）【主体的に学習に取り組む態度】

地域の歴史について、大きな枠組みの中で相対的に見る姿勢を身に付けようとしている。

学習課題（第5次）

・活動への参加を通じて、単元の学習を踏まえながら中国の歴史を相対化するよう努める。

学習課題（第5次）に対する評価の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・活動に積極的に参加し、単元の学習を踏まえながら、中国の歴史を世界史の中で相対的に見る姿勢を身に付けている。
--

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・(B)の基準に加え、他の生徒の意見を積極的に取り入れようとしていたり、協同的な学習を促したりしている。
--

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導

・活動に積極的に参加していない。→個別に助言する。

6 成果と課題

旧課程「世界史B」の授業の中で、新課程「世界史探究」を想定した単元として実践した。日頃の授業の展開は、基本的には授業プリントを基にした講義形式であるが、講義に関する資料等を読み解き、問いに対し80字以内で論述する「R80」を実施している。これは茨城県立並木中等教育学校で実践されているもので、本協議会で紹介され、1学期末考査後から取り入れた。

本時の実践は、その試みのまとめに位置付け、三つの資料を基にしたジグソー学習を展開した。授業への参加者67名のうち、「A」が18名、「B」が46名、「C」が3名となった。「B」については、生徒に対して「B+」「B」「B-」と差をつけて返却することで、到達度がより明確になるようにした。解答例については「ワークシート・資料編」に示した。

資料に対してグループで協力しながら解決しようとする姿がほとんどの生徒に見られた。日頃から問いを意識した授業を行い、かつR80で要点を整理しているため、課題を考察して自分なりに表現することが習慣化したと考える。これまでの授業実践を通して分かったことは、講義中心の授業であっても、日頃から問いを意識させ、考察したことを表現させる習慣が身に付けば、探究的な活動は十分に可能であるし、授業中の数分でも隣同士で協議し、授業終わりに振り返りを書かせるだけでも探究的な思考力は身に付くと考える。

本時の課題は、まずA・B・Cそれぞれのエキスパート資料の難易度が均一でなかったことである。具体的にはBの資料②は省いても問題なく、解答を見ても「遣唐使の中止」に触れている生徒が予想以上に少なかったため、省いた分、年表中の「中止」に注目させるような提示ができたと考える。次に、Cの資料について活用できている生徒が少なかったため、安祿山に限らず、「唐に抜擢された異邦人」という視点で資料を作成しても面白かったと考える。例えば、タラス河畔で敗れた高仙芝などはその例である。さらに、授業で隋唐帝国の「拓跋国家」としての性格について解説したので、科挙や唐王朝の婚姻関係など、唐代に見られた遊牧国家的特質を読み取ることができる資料があれば、授業内容をより生かすことができた。

「華夷思想」については、この単元に限らず、遼・金・元や、さらに先の明清王朝まで視野に入れて今後の授業を展開していけば、今回主に空間的な広がりの中で相対的に考察した「中国」を、時間軸の中で相対的に捉えることが可能になると考える。さらに、今回実践した2年生は1年次に歴史科目を履修していないが、新課程では探究科目の前に必ず歴史総合を履修していることを踏まえると、現代までの中国を見据えた奥行きのある考察を求めることができ、発展させる余地がまだ残る。

7 参考文献

- ・小川幸司『世界史との対話 70時間の歴史批評(上)』(地歴社 2011年)
- ・林俊雄『興亡の世界史 スキタイと匈奴 遊牧の文明』(講談社学術文庫 2017年)
- ・渡辺信一郎『シリーズ中国の歴史① 中華の成立 唐代まで』(岩波新書 2019年)
- ・杉山正明『中国の歴史8 疾駆する草原の征服者 遼 西夏 金 元』(講談社学術文庫 2021年)
- ・中島敦『李陵・山月記』(新潮文庫 1969年)
- ・『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(文部科学省)
- ・教科書『改訂版 詳説世界史』(山川出版社)
- ・教科書『世界史探究 詳説世界史』(山川出版社)
- ・教科書『世界史探究 新世界史』(山川出版社)
- ・教科書『世界史探究 Advanced World History』(東京書籍)
- ・教科書『新詳世界史探究 A World History』(帝国書院)
- ・副教材『アカデミア世界史』(浜島書店)